

令和4年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
心豊かにたくましく	自分の思いも友達への思いも大切にしよう ～伝える力・聞く力の育成～	遊びのなかで「おもしろい」と感じたことを試したり工夫したりして遊んでいる	子どもの興味関心や「こんなことしたい」の気持ちに保育者がすぐに対応している。保育者や友だちと一緒に考え、工夫しながら遊びを発展、継続する姿が増えた。	A	A	・少人数でのよさを活かし、一人一人の興味関心に目を向け、丁寧に関わっていることで、子どもたちの姿が変わってきており、遊び方や友達、先生との関わりで成長がみられた	・子どもの思いや言葉に丁寧に寄り添い、耳を傾けていく ・子どもの「おもしろい」「やってみたい」と思った瞬間を捉え、保育者が一緒になって楽しみながら関わっていく
		自分なりの言葉で考えていることや感じたことを友達や保育者に伝えようとする姿が見られる	保育者が気持ちを受け止めていったことで、安心して自分の思いや考えをのびのびと言葉などで表現している。友だちと「一緒に」という姿が増えていくと、友だち同士で伝え合う姿も多くなっている。	A	A	・友だちとブランコで、ゆったり楽しそうに話しながら乗っている姿から少人数だからこそその姿であり、こころが経験できないことが十分できていると感じた	・人数は少なくなる中で、相手の思いを聞いたりする場を意識的に設け、聞こうとする気持ちを育てていく
		友だちとの関わりを喜び、友だちの考えていることや感じたことを聴こうとする	振り返りの時間が定着してきて、順番に話す、相手の話を聞くという姿勢ができてきている。遊びや生活の中でも、以前より友だちとの関わりが深まったことで、友だちの思いに耳を傾ける姿が増えている。	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差に考慮し、一人一人に応じた丁寧な教育を行っている。また経験の幅を広げるための取り組みがなされている	一人一人の発達に応じた支援や教育活動を職員間で連携を取り合い、また日々の打ち合わせなどを通し、活動内容を把握し、意見を言い合っていくことで子どもの姿から経験させたい事などの取り組みも進めていった。	A	A	・少人数の強みを活かし、一人一人に対応できていてとてもよい ・1号児と2号児で帰りの時間が違うが、そこをスムーズにするために対応を考えていることがよい	・久能こども園ならではの丁寧な教育保育を、次年度も引き続き行っていく。個々の発達や成長に合わせて、職員間で連携を図っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	1号児、2号児の生活の流れや発達に配慮し、それぞれが安心して生活できる環境を整えている	子どもの成長に合わせて、生活の流れや遊びを職員間で共有し検討したことで、安心して生活できるようになった。1号児が降園する時の職員動きを、明確にすることで子どももスムーズに移行できるようになった。	A	A	・外遊びを多く取り入れていることが良く、また久能山東照宮の梅摘みという貴重な体験ができています	・個々の発達や特性に配慮しながら、成長と共に生活の見直しを行い、子どもが安心して生活できるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	地域の自然や人とのふれあいや久能山東照宮の文化により経験したことを遊びや生活に取り入れている	自然物を取り入れたこどもギャラリーの製作や久能山東照宮の梅摘みから梅干し作りまでの過程を可視化しながら取り入れていった。日々の生活の中で、久能の豊かな自然を生かした遊びを身近に取り入れていく。	B	A	・廊下に掲示して見える梅干し作りが、活動の様子が目に見える、分かりやすかった ・9月の台風による影響で避難経路の見直しがあった	・久能の自然や地域との関わりを月案検討時に話し合い、遊びに取り入れ、こどもギャラリーの製作につなげていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	年間計画に沿った訓練が行われ、その中で「自分の命は自分で守る」という気持ちを持つ取り組みがなされている	様々な災害の想定での訓練や不審者訓練などを計画通りに沿って行い、毎月の会議で担当が反省点を上げ、話し合う機会をもつ事で、その時の課題が明確になり改善されている	A	A	・地震だけでなく、様々な災害に対応しながら訓練がされている ・子どもたち自身で、野菜を育ててクッキングして食べていく経験を重ねていったことで、好き嫌いが多かった子どもが食べられる物がたくさん増え成長を感じている	・避難経路がかわったことで、距離が伸びたため体力作りの取り組みを引き続き行っていく ・様々な災害を想定し、どこが一番安全かすぐ判断できるように職員間で話し合い、共有する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	栽培活動からクッキングの体験を通して様々な食材への関心がをもち「食べてみよう」という気持ちを持つような取り組みがなされている	種まきから収穫まで日数の短い野菜を育てたことや、農園マップをクラス内に掲示したことで、興味関心が持続し、食べる意欲につながっていった。	A	A	・個性豊かな子どもたち一人一人に合った対応ができており、担任の先生だけではなく園全体で見守っているのがわかる ・子どもたちの興味関心を、職員間で共有される場をもっていることがよいと思う	・なかよし農園での取り組みを行いながら、育てる、食べることへの意欲が持続できるように、マップや写真で可視化しながら行っていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の特性に合った個別支援計画が立案され、子どもの発達が職員間で共通理解され、日々の支援に生かされている	サポートプラン共通理解研修や日々の打ち合わせや会議などで担当者だけでなく職員全体で支援方法を検討し足り、共有したことでより個々に合った支援ができるようになっていった。	A	A		・引き続き、担当保育者だけでなく職員全体でサポートプランの作成のアドバイスや共有をしていく。また、関係機関との連携を強化し、子どもの育ちや課題を共有していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	年間計画に沿った教育の実施が行われている。状況変化に柔軟に対応され分掌担当が責任を持って職員共通理解へつなげている	毎週木曜日に話し合い、次週の予定をホワイトボードに記入することにより、活動への見直しを持ち、職員間で共通意識の下連携を取りながら保育を行う事ができた。	A	A		・引き続き、木曜日に次週の予定を記入していく。また毎日、明日の予定を確認しながら、具体的に何が必要でどのように準備していくか職員全体で共有しながら進めていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ『一人一人が「おもしろい」を見つけるための保育者の援助』に向けて計画的に評価と反省が行われている	公開保育や日誌記入を通して、研修テーマに沿いながら計画的に継続的に、評価反省を行ってきた。個々の発達や子ども達の今の興味関心を職員間で共有する機会をもち、教育保育を行うことができた。	B	B	・節分では豆をまくという元来の方法だけでなく、子どもたちからどう鬼を退治するのかのアイデアを出し合っ て、考えたり作ったりする子ども主体の取り組みがよかった ・写真付きの連絡ボードで、毎日どんな園生活が送られているのかわかる	・園内の公開保育を通しての学びを今後も継続的に、教育保育を語り合う場を設けていく ・研修テーマの手立ての振り返りができるよう、日誌の記載方法を検討する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	発達や興味に沿った保育活動(遊び)が行われ、子どもが「おもしろい」と感じるような環境が整っている	職員間で連携を取りながら、子どもの興味に沿った環境を整えていたが、次の「おもしろい」「もっとやってみたい」につながる環境の工夫や持続にやや欠けた点があった。	B	B	・保育者自身が「おもしろい」「やってみたい」を発見できるような教材研究を行っていく。また、発達や興味に合っているか職員全員で意見を出し合う場を作り、環境作りを楽しみながら行っていく	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	写真等を取り入れた連絡ボードにより保護者に活動内容が伝わっている。年間計画に沿い、こどもギャラリーに子どもたちの製作した作品が展示されて	写真を毎日取り入れた連絡ボードが定着し、子どものやったことだけでなく、気付きや学びを伝えるように意識した。その写真をもとに、保護者とのコミュニケーションをとるきっかけとなり、園での様子など子どもの姿をより深く伝えてい	A	A	・子どもギャラリーは季節を感じられ、見るのを楽しみにしている ・今年度は運動会も開催され、地域との関わりが増えた。小学校との交流では、少人数の園なのでこういう場で集団的な遊びの場を経験させてもらえるのがよい	・写真を取り入れながら連絡ボードを活用し、子どもがどんなことに楽しさを感じているのかなど、深く子どもの姿や育ちを伝えられるようにしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	集団的な遊びを経験する場として、また地域の情報交換の場として、久能小学校との交流が年間を通じて行われている	運動会やどんぐり拾い、久能のみなさんこんにはなどの交流を通して、親しみや小学校への憧れの気持ちが芽生えていた。人数は少ないが、久能地区ならではの関わり、連携がとれている。	A	A		・前年度までは年長児と1～2年生の交流を年間計画に取り入れて行ってきたが、今後は状況も踏まえ、年齢に関係なくこども園と小学校との交流の場として連携を図っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方の協力と温かい見守りを受け、「なかよし農園」での活動や東照宮での梅摘みなど継続的な交流が実施されている	いちごクラブとの交流や久能山東照宮での親子での梅摘みなど行った。また地域の方に苗や野菜を頂き、農園では栽培にあたっての助言をしていただきながら収穫に向けての取り組みができた。	A	A		・なかよし農園の活動と「久能のみなさんこんには」を園児2人で無理なく楽しみながら取り組める方法を1(3)とつなげ計画していく